

第 6 期（平成 2 7 年度）事業報告書

（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

1. 事業内容

(1) 研究助成事業

① 第24回（平成27年度）助成事業の概要

本年度の研究助成総額は、7,696 万円といたしました。

② 応募の状況

本年度の研究助成募集は、4 月 1 日より、財団のホームページでの公募を行いました。

6 月 30 日の締切日までに、185 件の応募がありました。

③ 選考結果

平成27年10月5日（月）、丸ビルコンファレンスにおいて選考委員会を開催し、慎重審議の結果、89件（助成金総額7,696万円）が、助成対象候補として選考されました。その後、10月30日（金）の第12回臨時理事会で、選考案どおり決定いたしました。

助成決定先の研究者および研究題目は次頁の表の通りです。

なお、財団設立以来、24 期間における助成の累計は 1,263 件、助成総額は 12 億 8,368 万円となっております。

番号	氏名	役職名	所属機関	研究課題名	助成金額
15-01	柳本 憲作	教授	鶴岡工業高等専門学校	アクティブ吸音ルーバー構造による室外漏れ音の静粛化	¥1,000,000
15-02	谷本 潤	教授	九州大学	都市住宅街区の夏季最大電力デマンド圧縮に寄与するエコライフシナリオ	¥1,170,000
15-03	西 晴久	講師	東京慈恵会医科大学	住宅環境に起因したアレルギー症増悪に関する研究	¥870,000
15-04	永井 久也	教授	三重大学	初期火災性状予測のためのフィールドモデル適用とこれによる第二種排煙方式の妥当性検証	¥1,600,000
15-05	野田 茂	教授	香川大学	山型架構吊り天井における耐震補強具の開発と振動実験	¥1,200,000
15-06	白井 裕泰	教授	ものづくり大学	木造住宅の長寿命化に関する研究－伝統的住宅の再生・活用の確立	¥1,600,000
15-07	吉永 淳	准教授	東京大学	室内の鉛汚染源の探索と健康リスク評価	¥1,365,000
15-08	高木 次郎	教授	首都大学東京	外装用鋼製薄板を用いた既存木造住宅の外付耐震補強工法の開発	¥975,000
15-09	信田 聡	教授	東京大学大学院	スギ材・樹皮を用いた繊維系断熱材の熱処理による断熱性能向上	¥650,000
15-10	飯塚 淳	助教	東北大学多元物質科研究所	発泡ポリスチレンビーズ使用製品からの化学物質放出量の測定	¥1,000,000
15-11	井本 佐保里	助教	東京大学大学院	ネパール地震後の被災者の「仮住まい」の実態と今後の本格復興に関する研究	¥1,400,000
15-12	林 和宏	助教	豊橋技術科学大学	巨大地震時の地盤液状化に伴う大型建築物杭部材に対する安価かつ簡易な損傷検知手法の確立	¥1,200,000
15-13	坂本 慎一	准教授	東京大学	建物ファサードへの負荷となる交通騒音の音源特性の把握に関する研究	¥1,200,000
15-14	田村 繁治	主任研究員	産業技術総合研究所	高齢者の色覚変化を考慮した照明スペクトルの調査	¥1,000,000
15-15	樋山 恭助	准教授	山口大学	内庇の圧迫感を軽減するミラーガラスを用いた多段型ライトシェルフの開発	¥1,400,000
15-16	藤井 雄作	教授	群馬大学	e 自警ホームカメラによる安全・安心な街づくり	¥1,400,000
15-17	木村 信忠	研究グループ長	産業技術総合研究所	住居内における微生物の空間分布マップの作成	¥1,000,000
15-18	小林 克弘	教授	首都大学東京	海外コンバージョン建築事例の新規開拓のための調査研究	¥850,000
15-19	西館 有沙	准教授	富山大学	子どもの引きこもりやリストカットなどの思春期病を予防するための住環境の提案	¥625,000
15-20	堤 洋樹	准教授	前橋工科大学	木造大壁の内部劣化診断手法に関する研究	¥1,200,000

15-21	村松 伸	助教	東京大学	地域生態圏から見た住宅の全球史：構造、材料、環境、意匠	¥1,000,000
15-22	八尾 廣	准教授	東京工芸大学	ウランバートル市ゲル地区における定住型住居の実態調査及びセルフビルド住宅建設に関する技術支援	¥1,000,000
15-23	西村 勇也	准教授	熊本高等専門学校	換気・排煙用開口部の騒音低減に関する研究	¥1,158,000
15-24	陳 沛山	教授	九州工業大学大学院	純ガラスに近い透明空間に適用する交差型立体組合せガラス・パネル構法に関する研究	¥1,000,000
15-25	山田 桂輔	研究員	産業技術総合研究所	居住環境で動作する機器の騒音評価－音響パワーレベルの精密測定技術の開発	¥1,140,000
15-26	長谷見 雄二	教授	早稲田大学	歴史的密集市街地における伝統的町家の保存活用のための防災改修手法の開発	¥2,000,000
15-27	伊藤 栄寿	准教授	上智大学	空き家問題を解決するための法制度に関する研究	¥420,000
15-28	前田 啓	助教	東京大学大学院	複数の測定方法の組み合わせによる密度補正の不要な含水率測定方法の開発	¥690,000
15-29	小林 光	准教授	東北大学大学院	潜熱蓄熱材（PCM）を用いた自然エネルギー利用による多段階室温管理技術の開発	¥1,200,000
15-30	野崎 淳夫	教授	東北文化学園大学大学院	放射性物質による環境汚染への建築工学的対策に関する研究	¥1,200,000
15-31	土川 忠浩	教授	兵庫県立大学	多湿地域における地域産材を用いた溝付き木板の調湿利用	¥475,000
15-32	三浦 昌生	教授	芝浦工業大学	地域の安全・安心に向けた門灯点灯の効果と住民意識の把握	¥750,000
15-33	菊田 弘輝	助教	北海道大学	再生可能エネルギーによるパッシブ換気住宅の高度化に関する研究	¥1,080,000
15-34	都築 和代	総括研究主幹	産業技術総合研究所	高齢者の体温調節能力を考慮した冷房・暖房計画に関する研究	¥1,400,000
15-35	曾我部 昌史	教授	神奈川大学	美波町日和佐景観地区における減災および高齢化に資する既存住宅の活用方法の研究	¥1,000,000
15-36	平沢 岳人	准教授	千葉大学大学院	伝統木造構法を対象としたロボットによる部品加工に関する研究	¥650,000
15-37	三島 伸雄	教授	佐賀大学	歴史的な地方都市の地震起因型大火災想定避難分析に有効な住民避難行動意識調査	¥800,000
15-38	小峯 裕己	教授	千葉工業大学	健康に配慮した快適な室内におい環境の形成に関する研究	¥1,000,000
15-39	小見 康夫	教授	東京都市大学	中古住宅のコンバージョンとマッチングサービスによる衰退地域活性化のビジネスモデル研究	¥600,000
15-40	室崎 千重	講師	奈良女子大学	公営住宅の車椅子使用者住戸における当事者の使いやすさに配慮したキッチン計画立案	¥560,000
15-41	開原 典子	主任研究官	国立保健医療科学院	居住者の乾燥感と住宅内湿度許容限界値に関する基礎的検討	¥1,600,000

15-42	小椋 大輔	准教授	京都大学大学院	真空断熱材の劣化予測に関する研究	¥1,000,000
15-43	後藤 伴延	准教授	東北大学	人間の血圧・血流解析のためのモデルパラメータの検証	¥1,000,000
15-44	秋澤 淳	教授	東京農工大学	放物面ミラーを用いた壁面設置型太陽集熱器による温水回収の高温化	¥900,000
15-45	築瀬 佳之	助教	京都大学大学院	木造建築物における高感度代謝ガス検出法を用いた木材腐朽菌の識別	¥1,200,000
15-46	村上 心	教授	椙山女学園大学	東南アジアにおける在来構法の類型化～タイの場合～	¥1,000,000
15-47	林 康裕	教授	京都大学	大垂壁を有する伝統木造住宅の倒壊防止に関する実験的研究	¥1,200,000
15-48	吉岡 智和	准教授	九州大学	ボルト摩擦すべり接合により連結した高減衰柱梁接合部を有する木質制振構造の開発	¥1,200,000
15-49	松原 茂樹	准教授	大阪大学	イスタンブールフェネルバラッド地区における 多様な人々に開かれた空間文化を継承する都市デザインモデルの提案	¥1,200,000
15-50	野澤 千絵	教授	東洋大学	店舗利用が進行する伝統的建造物群保存地区の建築規制緩和条例の効果と課題 ～防火規制の代替措置に着目して～	¥500,000
15-51	宮澤 智士	所長	阿部和建築文化研究所	「日本民家史試論」出版助成	¥1,000,000
15-52	長谷川 兼一	教授	秋田県立大学	住宅のダンプネスを防除するための換気システムの最適設計に関する基礎的検討	¥1,200,000
15-53	黒石 いずみ	教授	青山学院大学	生き延びるための家：「生き方」を中心とした住宅の空間機能と技術概念の再考	¥1,000,000
15-54	野田 和俊	主任研究員	産業技術総合研究所	ロボット型クリーナーを活用した屋内環境ロケーションシステムの開発	¥1,170,000
15-55	西澤 岳夫	准教授	釧路工業高等専門学校	北方先住民居住「チセ」の防寒対策に関する研究(仮)	¥890,000
15-56	與那 篤史	助教	琉球大学	再生可能エネルギー及び地中空間を利用した防災対応型植物工場	¥1,000,000
15-57	古賀 誉章	助教	宇都宮大学	極小空間の環境制御とその効果	¥1,000,000
15-58	永井 拓生	助教	滋賀県立大学	市場ニーズに応える木材生産と長期的視座に基づく森林管理および里山の環境づくりに関する研究	¥875,000
15-59	松岡 聡	准教授	近畿大学	現代日本のすまいの配置のアーカイブ化に関する研究	¥1,122,000
15-60	西岡 真稔	准教授	大阪市立大学	ガラス建築用太陽熱遮熱・集熱窓システムの開発	¥1,280,000
15-61	多幾山 法子	准教授	首都大学東京	看板木造建築の地震時挙動と面内偏心壁の直交構面への影響	¥1,200,000
15-62	浅井 秀子	准教授	鳥取大学	人口減少地域における地震災害時の提案型伝統的復興住宅の実態と効果に関する研究	¥1,000,000

15-63	斎藤 健志	助教	埼玉大学	地中熱ヒートポンプシステムの持続的利用に向けた地下環境影響評価	¥1,000,000
15-64	前川 歩	研究員	国立文化財機構奈良文化財研究所	歴史的建造物群の持続における余剰空間の機能	¥650,000
15-65	坂本 秀一	准教授	新潟大学	ドア下部の開閉・通風用隙間に適用する消音構造に関する研究	¥1,200,000
15-66	岸本 嘉彦	助教	室蘭工業大学	寒冷地の戸建住宅における冷暖房利用実態調査に基づく吸放湿材の有効利用法の検討	¥1,200,000

調査研究助成合計 ¥69,385,000

若手	名前	役職名	所属機関	研究課題	金額
15-67	内藤 旭恵	講師	静岡産業大学	歴史的建造物のデジタルアーカイブに関する研究	¥300,000
15-68	板垣 勝彦	准教授	横浜国立大学	住宅市場を通じた国・自治体の法政策の実現過程の分析	¥450,000
15-69	長谷川 祥子	助教	岐阜市立女子短期大学	囲み空間での休憩がストレス緩和に及ぼす影響に関する研究	¥300,000
15-70	坂本 良太	助教	東京大学	二次元原子層高分子「ボトムアップ型」ジピリン金属錯体ナノシートの太陽電池への応用	¥350,000
15-71	水谷 晃啓	助教	豊橋技術科学大学	VR環境を用いた住宅・インテリア設計の手法化に関する研究	¥450,000
15-72	西川原 理仁	助教	豊橋技術科学大学	住宅内熱管理を目指したループヒートパイプに関する研究	¥450,000
15-73	馬淵 大宇	助教	釧路工業高等専門学校	バーチャルリアリティを用いた建築設計教育に関する基礎的研究	¥450,000
15-74	小林 弘明	主任	あいち産業科学技術総合センター	塗装亜鉛めっき鋼板における塗装前処理技術の開発	¥450,000
15-75	菊地 淑人	アソシエイトフェロー	国立文化財機構奈良文化財研究所	文化的景観を構成する集落・建造物の保護・継承に関する基礎的研究	¥450,000
15-76	亀谷 雄樹	助教	東京理科大学	環境機能性と色彩制御性を両立するナノ粒子焼結マイクロ構造表面層の開発	¥300,000
15-77	崔 希燮	助教	北見工業大学	合成繊維補強セメント系複合材料による寒地コンクリートのひび割れ制御型自己治癒システム構築	¥300,000
15-78	廣石 秀造	助手	日本大学	小断面木材を用いた木質集積構造の張力変動に関する実験的研究	¥300,000
15-79	林 憲吾	科学研究員	京都大学	熱帯の制約と可能性：戦後インドネシア人建築家の住宅設計にみる環境への応答	¥350,000
15-80	糸井川 高穂	助教	宇都宮大学	ナッジによる省エネ行動の誘発	¥300,000
15-81	内山 英昭	助教	九州大学	Window see through 型 AR のための基盤構築	¥300,000
15-82	人見 誠マルセル	法人ポストドクター	明治大学	都市縮小時代における伝統的景観の有する空間構成力と縁辺部の建築ストックの役割に関して	¥336,000
15-83	鈴木 さち	博士後期課程	東北大学	ニューオーリンズ市におけるハリケーン・カトリーナ災害後の住宅再建における住宅再建支援組み合わせの実態	¥240,000

若手研究助成（若手研究者）合計 ¥5,776,000

学生	名前	役職名	所属機関	研究課題	金額
15-84	小澤 淳史	博士課程前期 1年	明治大学大学院	素材から見た街並み景観の考察～「マテリアル・スケープ」による景観コントロールの可能性～	¥300,000
15-85	京 智健	博士課程2年	京都工芸繊維大学 大学院	アジア都市における伝統地域の居住空間に関する研究	¥300,000
15-86	菊地 尊也	博士後期課程	東北大学大学院	1950年代の百貨店催事場における「住まいに関する 展覧会」の果たした役割	¥300,000
15-87	三好 由華	博士後期課程	京都府立大学大学 院	廃熱処木粉を用いた耐水性に優れる木材・プラスチ ック再生複合材料(WPRC)の製造技術開発	¥300,000
15-88	政木 哲也	博士後期課程	京都工芸繊維大学 大学院	郊外住宅地における住民自治的住みこなしの現状と その空間構成についての考察	¥300,000
15-89	高林 弘樹	博士後期課程2 年	千葉大学	骨格と筋肉のテンセグリティ系を模倣した建築構造 物の設計手法	¥300,000

若手研究助成（学生）合計 ¥1,800,000

第24回（平成27年度）研究助成総合計 83件 ¥76,961,000

(2) 自主研究事業

[1] 第五回 LIXIL 国際大学建築コンペ

(共催 株式会社 LIXIL、北海道大樹町)

北海道大樹町は冬寒く、閉ざされます。そうした自然の寒さや煩わしさも、建築やライフスタイルを考えることでポジティブにすることができます。寒い中でコートを着て星空を眺めたり、サウナから極寒の湖に飛び込むフィンランドのもてなしや、日本のお風呂など、各地には機器に頼らないサステナブルな楽しみがあります。大樹町には自然の厳しさとともに美しい緑があります。素材のローカリティーにとらわれず、今考えられる建築の提案をテーマに世界の有力大学の学生による設計コンペティションを実施し、4月21日開催公開審査会にてオスロ建築デザイン大学「INVERTED HOUSE」が最優秀作品に選ばれました。「MEMEMEDOUZ」に実際に建設され12月2日に現地にて竣工前内覧会(1月21日竣工)を行い、今後は実験データの技術的な有効性を検証し、社会に情報を発信していきます。

[審査委員]

隈 研吾 (委員長、東京大学 教授)、野城 智也 (審査員、東京大学副学長)、
ディナ・バントロツク (審査員、カルフォルニア大学バークレー校教授)

(参加大学)

パリ・ラヴレット建築大学(フランス) ミラノ工科大学(イタリア) オスロ建築デザイン大学(ノルウェー)
マドリード高等建築大学(スペイン) イスタンブール工科大学(トルコ) イェール大学(アメリカ) サンパウロ
大学(ブラジル) 香港大学(香港) ソウル大学(韓国) チュロンコン大学(タイ) 東京工業大学
(日本) 東京農業大学(日本)

[2] ワークショップスタジオの運営

「スタジオ メム」は、築40年以上経過した牧草保管用倉庫を、倉庫として使われていた当時の雰囲気そのままに、ワークショップ利用を考慮のうえ、改修生まれ変わった施設です。この施設では、情報ネットワークの発達により都心から個性豊かな地方都市で生活する人が増えている状況を踏まえ、私たちのライフスタイルの変化に着目し、各種講座やワークショップを通じて「これからのライフスタイル」を考えます。

[実施事項]

「スタジオ メム」の竣工式にあわせて、伊東建築塾(代表:伊東豊雄)によるワークショップが、8月21日から23日の3日間で行われました。伊東建築塾は2011年に開塾して以来、これからのライフスタイルやまちづくりの可能性を探求するため、ワークショップやレクチャー、ディスカッションを行っています。最初のワークショップでは、北海道の大地から生産される食材にスポットを当て、地元である北海道大樹町の生産者の方々と意見交換を行い、地元の食材を使った料理を教わりながら、これからのライフスタイルを考える講座を開講しました。

[3] 健康のための住宅環境研究（継続事業）

（共催 北海道大樹町、株式会社 LIXIL 帯広営業所）

寒冷な冬季環境下にある大樹町の高齢者施設を対象として、大量のエネルギーを使用する給湯・温水システムにおける熱損失を低減するとこにより省エネルギーを図るとともに、高齢者が快適に過ごせるように冬は暖かく、夏は涼しい室内環境の実現を目的としています。

[実施事項]

- 給湯・温水システムの実態把握
- 各部温度の測定、電気、重油使用料調査、熱損失箇所の推定
- 給湯・温熱システムの制御法調査
- 建物全体の温湿度・二酸化炭素濃度の測定並びに換気状況の推定
- 建物使用者への聞き取り調査
室内環境について問題と感じていること、室内環境の調整での工夫点
- 結露の実態調査
- 床下の温湿度環境測定と目視調査

[成果]

- 給湯・温水システム各系統におけるエネルギー消費の概略を把握しました。
- 熱損失の大きな系統・部位の特定および給湯・温水システムの問題の可能性を明らかにしました。
- 冬の温湿度環境の実態を把握しました。
- 冬の室内環境調整の改善方法の提案について検討しました。
- 暖房の温水配管からの熱損失等による床下の高温化、外周基礎からの水分の浸透等による床下の高湿化を確認しました。
- 暖房負荷の増大、床下配管のサビ進行、カビ発生などの問題点を同定しました。

[今後]

- 各部の温度測定法の改善と測定継続および追加測定（流量）の実施
- 上記に基づく熱損失量の算定
- 熱損失が大きく断熱実行可能性のある部位の断熱改修とその効果の確認
- 最適な給湯・温水システムの運転方法の提案
- 室内温熱環境の改善策の実施と効果の確認
- 入居者の健康状態と温熱環境の相関関係の追究
- 暖房負荷の増大、床下配管のサビ進行、カビ発生のメカニズム解明と対策の実施
- 給湯・温水システムと室内温熱環境および床下温湿度環境とが相互に及ぼす影響の明確化とそれに基づく給湯・温水システムの建物の最適設計

[4] バングラディッシュ 竹構造の家（継続事業）

（委員長：長岡造形大学 山下 秀之教授）

バングラディッシュは北海道の約 2 倍の面積に 15 倍の人口密度であり人口密集地帯であり、人口は増加傾向にあります。また洪水や暴風が多くデルタ地帯では 10 年に 1

度の洪水で国土の70%が沈むとされています。そこでバングラデシュ特産の竹を主体構造とする複数階住宅を建設することによって、人口増加による農地の宅地化をとめ、3年で生育する竹を利用して環境負荷を低減することを研究目的として洪水や暴風に強いボラック竹(世界最強の竹、南米産グアドゥアに匹敵、3年で成木)による2階建ての高床式実験住宅を建設しました。今後は強度、居住性等の実験を行い実用に向けた研究を進めて行くと同時に日本国内の建材にもその研究成果を適応し、竹の特性である曲げ強度が高い性能を取り入れ、耐震性住宅及び建材を研究します。

[5] メムメドウズを活用した学生研修

(委員長：京都大学 銚井教授)

メムメドウズの施設を活用し、学生自らが住宅に関する研究テーマを設定、滞在しながら実験・分析し、レポートを発表します。これにより、若い世代が住宅及び住環境、地域特性や住まい方などの知識を深めるとともに、将来望まれる住宅像を自ら考える場としています。

[実施事項]

地元大樹町の大樹高校と、京都大学大学院工学研究科ならびに神戸大学大学院工学科の連携による調査研究・教育活動「*アクティブ・ラーニング学習交流会」を行いました。

*アクティブ・ラーニングとは: 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、理論的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

本交流会は、一般的な講義形式の学習とは異なり、メムメドウズの施設を活用し、学生自ら能動的に学習していく場として開催するものであります。両大学の研究活動に大樹高校の生徒が参加することで、生徒の自然科学・工学に対する探究心を高め、科学的な思考や表現力の育成を目的とします。また、地域気候環境の異なる学生・生徒の交流を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、地域文化や住まい方・暮らし方について学ぶ場となります。

[6] 鎌倉地域における高齢者住宅研究会

(委員長：横浜国立大学 大原一興教授)

高度経済成長期に大都市周辺の高台丘陵地に開発された住宅団地は、少子高齢化が進み周辺から隔絶する傾向にあり、空き家も増加し高齢化率50%になろうとする地区も存在する。これら「限界団地」化によって、まちの機能低下や住民生活への影響(地域活力の低下、日常購買施設の撤退、福祉需要増大、将来不安 etc.)が危惧されている。本研究は、具体的な地域を主たるフィールドとした社会実験を行い、超高齢化による住宅・住環境の課題の整理、既存の地域資本(空き家等)を最大限に活用する方法の提示、超高齢社会に対応した社会システムと新たなライフデザインを高齢者自ら作り上げるためのまちづくりモデルを構築を目的としています。

[過去実施概要・成果]

平成25年度 空き店舗拠点施設コミュニティカフェの試行、空き家活用マッチングシステムの構築(空き家情報と診断)、地域情報・意向の収集

平成26年度 拠点施設運営の効果測定と評価、空き家活用システムの模索、地域将来像のデザ

イン、空き家・空き店舗における活動の試行

平成 27 年度 空き家改修分散型サービス付き高齢者住宅等、地域運営システムの試行と全体評価、地域通貨等による相互協力のシステム化

[今期実施事項・成果]

最終年度の平成 27 年度には、これまで地域住民と活用法を調査・立案してきた空き家を、所有者への協議を経て具体的に施工・実現しました。一戸建て空き家を、1階を地域住民のコミュニティ利用スペース、2階を若い人向けのシェア住居室へと地域に開かれた住宅に転用改修しました。

個人所有の一般住宅を地域共用へと転換する画期的な試みとして実施しました。さらに、その共用財産を地域で管理するための運営組織として、地域のまちづくりを行う NPO 法人を平成 27 年 7 月に設立し、施工後の管理を担うこととしました。

物理的改修とともに運営組織コミュニティをも創造いたしました。これまでの議論をもとに作り上げてきた今回の試みの実現によって、地域住民自らが、自分たちの地域の資産を活用し地域作りができるということに目覚めることとなりました。

アンケート調査等を根拠として、空き家を活用した複数の福祉拠点化による分散型地域ケアシステム（介護が必要となっても戸建て住宅地に住み続けられるシステム）の地域モデルを構築し、さらにシステム全体の展開実現へと活動を進めています。

[7] 環境技術環境機構「メムメドウズ」の運営

実験住宅「メーム」及びスマートリフォーム住宅を東京大学生産技術研究所による耐震、断熱等の実験検証を進めると同時に環境を含む住生活の研究を目的として国際学生建築コンペの最優秀作品の建設と検証実験を行い、住生活をとりまく多様な実験施設として運用を図って行きます。

(施設概要)

1. 実験住宅「メーム」「竹の家」「町まとう家」「Barn House」「Horizon House」「NEST WE GROW」「INVERTED HOUSE」
2. ワークショップスタジオ「スタジオ メム」
3. スマートリフォーム住宅
事務棟、コンファレンスセンター（宿泊施設）、住宅 1・2 号棟、管理棟、ログハウス 1 号棟、ログハウス 2 号棟、多目的施設、レストラン棟、果樹園

2. 理事会・評議員会

(1) 第 11 回 通常理事会

日時：平成 27 年 5 月 14 日

開催場所：書面決議

決議事項：第 1 号議案 第 5 期（平成 26 年度）事業報告書の承認

第 2 号議案 第 5 期（平成 26 年度）財務諸表等の承認

第 3 号議案 評議員会の開催の承認を求める件

第 4 号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事 9 名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(2) 第 6 回 定時評議員会

日時：平成 27 年 5 月 19 日

開催場所：日本工業倶楽部第 6 会議室

決議事項：第 1 号議案 第 5 期（平成 26 年度）事業報告書承認の件

第 2 号議案 第 5 期（平成 26 年度）財務諸表等承認の件

第 3 号議案 理事選任の承認を求める件

第 4 号議案 監事選任の承認を求める件

第 5 号議案 評議委員選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る評議員 8 名中 6 名が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

(3) 第 11 回 臨時理事会

日時：平成 27 年 5 月 19 日

開催方法：日本工業倶楽部第 6 会議室

決議事項：第 1 号議案 代表理事選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る理事 9 名全員が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

(4) 第 12 回 臨時理事会

日時：平成 27 年 10 月 30 日

開催場所：書面決議

決議事項：第 1 号議案 平成 27 年度助成先及び助成金額について承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事 9 名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

(5) 第 12 回 通常理事会

日時：平成 28 年 3 月 11 日

開催場所：書面決議

決議事項：第 1 号議案 平成 28 年度事業計画の承認を求める件

第 2 号議案 平成 28 年度正味財産増減予算の承認を求める件

第 3 号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事 9 名全員の書面による同意の意思表示により、
理事会の決議があったとみなされた。